

アマゾンの生き物



アマゾン地域には現在クマ科、ネコ科、イヌ科、アライグマ科、バク科、ペッカリー科といった陸生ほ乳類が生息しています。これらは南米・北米両大陸が陸続きになった後に地上を移動して渡来したと考えられています。



ジャガー
主に中米から南米に分布しています。美しい柄の毛皮を持つために多くが狩猟され、絶滅が危惧されています。



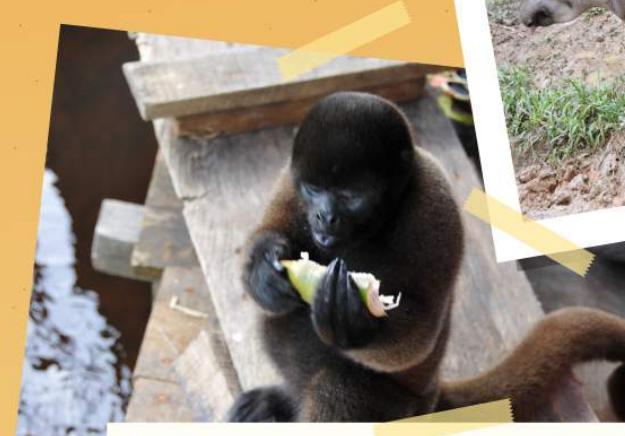
ミツユビナマケモノ
ナマケモノ、アリクイ、アルマジロは南米大陸を象徴するほ乳類です。来た時には屋根にぶら下がっていたナマケモノも、帰るときにはいなくなっていました。



ルリコンゴウインコ
南米には150種のインコの仲間が生息していますが、その中で体が最も大きく尾が長いのがコンゴウインコの仲間です。20羽くらいまでの群れで行動します。



カピバラ
南米大陸に広く分布する世界最大のネズミの仲間です。水生生活に適応しており、足には水かきがあり、鼻や目・耳が高い位置にあるため、水中に身をひそめながら呼吸することができます。



クロクモザル
名前のとおり全身黒色の体で、クモのように長い手足と尾をもっています。よく人になついていました。



ヤドクガエル
派手な体色が特徴で、先住民が毒を抽出し吹き矢に塗って矢毒とし狩猟等に用いたことが名前の由来となっています。現地の養殖場から逃げ出していたのを撮影しました。



アメリカバク
南米の熱帯雨林に広く分布しています。幼獣にはイノシシのウリ坊と同じように白い縞模様があります。それにしてもブサイクですね。



シロムネオオハシ
大きなくちばしが特徴のキツツキの仲間です。なぜこんなに大きいのか不明ですが、細い枝の先にある果実を捕食できる、警告色、個体識別に役立つなどの説があります。



ハタオリドリの巣
大半がアフリカにすむスズメに近い仲間ですが、南米には外来種として入っているそうです。いたるところに巣がぶら下がっていました。